

報 雜

人 事

叙從七位	正八位勳六等	長 濱 丹 治	叙從六位	正七位	岡 田 俊 之
		(六月一日)			(九月二十八日)
叙從七位	正八位	砂 田 善 平			小 田 大 吉
		(六月十五日)	任岡山醫科大學助教授		
	從五位勳三等	石 原 貫 一	叙高等官七等		
	從五位	近 藤 喜 一	岡山醫科大學助教授	小 田 大 吉	
叙正五位		(七月十六日)	本俸十一級俸下賜		
叙從五位	正六位	辻 緑	職務俸金四百五十圓下賜		
		(八月十五日)		(十月十日)	
	正七位	大 岩 博 雅	宇都宮衛戍病院附	清 水 伸	
叙勳六等授瑞寶章		(九月二十九日)	陸軍一等軍醫		
叙從七位	正八位	安 田 常 男	免本職	(十月十六日)	
		(八月一日)	臺灣總督府醫院醫官	花 室 憲 章	
叙正七位	從七位	花 室 憲 章	八級俸下賜		
叙從七位		林 香 苗		(十月一日)	
		(八月十五日)	從五位勳四等	荻 本 快 吉	
叙從六位	正七位	畑 文 平	叙勳三等授瑞寶章		
	從七位	岸 本 春 榮	從六位	小 橋 納 一 郎	
	從七位	西 村 慶 次	叙勳六等授瑞寶章		
叙正七位		(九月一日)		(十月十六日)	

- 篠崎憲吉君 は今般久原鑛業株式會社を辭し岡山醫科大學藥物學教室に於て研究に従事せられたり
- 山本宗平君 は今般開業を中止し岡山醫科大學生理學教室に於て研究に従事せられたり
- 澄谷浦輔君 は今般札幌市北六條西十七丁目に移轉開業せられたり
- 諏訪瑩一君 は今般兵庫縣武庫郡精道村山隠屋に轉宅せられたり

○松波昶太郎君逝く 君は明治二十八年第三高等學校醫學部を卒業し獨逸國に留學ドクトルの學位を得歸朝後は岐阜縣稻葉郡加納町に開業し近年餘暇を以て岡山醫科大學に通學研究に従事し其結果既記の如く醫學博士の學位を得られしか去月二十五日病を以て遠逝せられたりと洵に哀悼に堪へず茲に謹みて弔意を表す

○尾上徳太郎君逝く 君は明治三十三年第三高等學校醫學部を卒業し兵庫縣加西郡下里村に於て開業し居られしか本月十三日遠逝せられたりと洵に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

◎學位授與 山内正、龍治節三の兩君は論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが去る9月17日の教授會を通過し本月6日醫學博士の學位を授與せられたり、兩君の主論文及び參考論文は左の如し

山 内 正 君

主 論 文

二、三哺乳動物膀胱ニ於ケル末梢運動神經主宰ニ關スル藥物學的研究

其1 二、三哺乳動物膀胱ニ於ケル末梢運動神經主宰ニ關スル藥物學的研究（本誌第432號ニテ發表）

其2 二、三哺乳動物膀胱三角部ニ於ケル末梢運動神經主宰ニ關スル追加研究（本誌第439號ニテ發表）

參 考 論 文

1. 「ヨヒンビン」ノ末梢性作用ニ就テ（本誌第39年第11號ニテ發表）
2. 「ヨヒンビン」ニ依ルニ三子宮興奮藥ノ作用本態分析（昭和3年度岡山醫科大學紀要ニテ發表ノ豫定）
3. 「ヨヒンビン」ノ體溫ニ及ボス作用ニ就テ（日本藥物學雜誌第6卷第4號ニテ發表）
4. 體溫下降作用ヲ有スルニ、三物質ノ作用本態ニ關スル比較（本誌第40年第4號ニテ發表）
5. 「ヨヒンビン」ノ血壓ニ對スル作用竝ニ之ニヨル「アドレナリン」及ビ「アドレナロン」ノ作用轉向ニ就テ（本誌第40年第6號ニテ發表）
6. 「チラミン」及ビ「フェニール・エチルアミン」ノ藥物學的知見補遺（本誌第436號ニテ發表）
7. 「テバイン」竝ニ其誘導體及ビ類似ノ血管作用ト其化學的構造トノ關係ニ就テ（本誌第441號ニテ發表）

龍 治 節 三 君

主 論 文

窠形二口蟲病治療研究

其ノ1. 「スチブナール」ノ窠形二口蟲病ニ對スル治療的及ビ豫防的效果ニ關スル實驗的研究

附、鹽酸「エメチン」及ビ「二藥劑」ノ效果ニ就テ（本誌第39年第10號ニテ發表ス）

其ノ2. 「スチベニール」「スチボーサン」及ビ「アンチモーサン」ノ窠形二口蟲病ニ對スル治療的效果ニ關スル實驗的研究（本誌第39年第11號ニテ發表ス）

其ノ3. 色素類ノ窠形二口蟲病ニ對スル治療的效果ニ關スル實驗的研究（本誌第40年第8號ニテ發表ス）

參 考 論 文

1. 窠形二口蟲病ニ於ケル補體結合反應ノ診斷的價値（本誌第384號ニテ發表ス）
2. 窠形二口蟲病豫防ニ關スル知見補遺（寛、深瀬、龍治共著）（日本之醫界第12卷第19,20號ニテ發表ス）

3. 匏形二口蟲病ノ臨牀的方面 (寛, 前川, 龍治, 深瀬, 戸出共著) (大正11年9月, 日新醫學定期増刊ニテ發表ス)
4. 匏形二口蟲病患者並ニ實驗的匏形二口蟲病家兎ニ於ケル血液所見 (內科學雜誌第21卷第6號及ビ第20卷第1號ニテ發表ス)
5. 「ステブナール」ノ匏形二口蟲病ニ及ボス作用ニ關スル實驗的研究 (龍治, 草野共著) (內科學雜誌第24卷第5, 6號ニテ發表ス)
6. 「ハイテン」第661號「アンチモーサン」ノ匏形二口蟲病ニ對スル治療的效果ニ關スル臨牀的觀察
 附. 匏形二口蟲病患者血清「ビリルビン」量ニ就テ (本誌第40年第4號ニテ發表ス)
7. 次亞硫酸曹達ニヨル腎機能檢査法ノ臨牀的價値ニ就テ (本誌第432號ニテ發表ス)

◎本學在外視察者の住所

- 清水教授 Chemisches Laboratorium, Archisstr. 1, München, Deutschland.
- 柿沼教授 bei Frau Henné, Bayreutherstr. 27, Berlin W. 30.
- 池上助教授 柿沼教授ト同居
- 北山助教授 bei Leo Herrmann, Bambergerstr. 3, Berlin-Schöneberg, Deutschland.
- 大熊助教授 bei Naehring, Alfredstr. 48, Hamburg, Deutschland.
- 西丸講師 Physiological Laboratory, School of Medicine, Cincinnati, Illinois, U. S. A.

◎ 正 誤

本誌40年9號には1911頁—1920頁迄誤植重複せり。茲に訂正す。